

特集

第15回 SRお客様交流会

2012年9月5日(水) 大田区産業プラザPiO

異業種のお客様同士がSR活用を通じて安全運転やエコドライブについて現場の意見を交換し合うSRお客様交流会。第15回目の本会は、81社120名のお客様が参加し、ドライバーや管理者様による積極的な情報や意見の交換が行われました。SR導入事例発表や分科会に加え、SRグランプリ、SR新製品の発表(P.3)もあり、大いに盛り上がりました。

第15回SRお客様交流会



運輸事業統括部
輸送事業部 輸送課
渡辺 百合江 様



現場のやる気がうなぎ上り!?
創意工夫でマンネリを完全打破!!

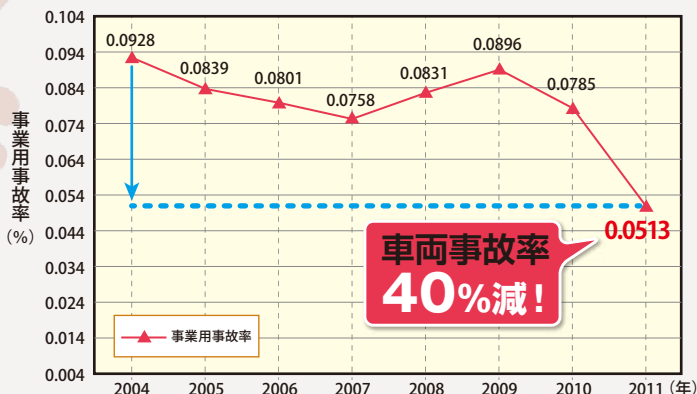
株式会社 ロジパルエクスプレス 様

所在地: 東京都葛飾区東四つ木4-42-5
営業拠点: 本社・営業所15カ所
設立: 2007年7月
代表者: 代表取締役社長 馬場範夫
従業員数: 470名
事業内容: 貨物運送事業・物流管理事業
倉庫業・自動車整備事業
車両台数: 138両
SR導入: SRV Digitacho (138台) を導入

車両事故率 約40%減

*2004年と2011年における事業用自責事故率の比較

右は、2004年から2011年までの事業用事故率(車両事故率)をグラフ化したもの。
SR導入の2009年を境にして、事業自責事故が減り続けており、2011年では2004年以来、車両事故率が最低となった。2004年と2011年を比較すると、車両事故率が40%も減少しているのがわかる。



そつなくハイレベルな 安全への取り組みと努力の数々

株式会社ロジパルエクスプレスは、株式会社バンダイナムコグループの物流会社です。1960年代にバンダイ運輸株式会社としてバンダイの玩具を全国各地に輸配送することを業務として事業を開始。1992年には株式会社バンダイロジパルに社名を変更し、2007年に倉庫、車両の現業部門を分割した株式会社ロジパルエクスプレスを設立。高品位な物流サービスを追求しています。

当社は、安全の取り組みとして「①安全へのツール」「②教育」「③車両装備・グッズ」——の3つを柱としています。

②の1つとして、営業所間でドライバーの運転技術を競い合う「ロジパルNo.1コンテスト」を開催。内容は、「学科」「整備点検」「運転技能」の3つで競技します。同コンテストは、毎年恒例行事として実施しますが、「3年間・無事故、無違反」などの厳格な参加要件をクリアしないと出場できません。非常に厳しい参加要件とハイレベルの学科、運転技能をクリアしてこそ「ロジパルNo.1になれる」ことに意味があると考えています。

安全へのツール

IT点呼の導入 デジタルMCA無線導入

教育

ドライバーコンテスト(ロジパルNo.1)

安全運転研修(新人ドライバー・事故者)

運行管理者研修

エコドライブ研修

車両装備・グッズ

全車両バックアイカメラ装着

バックソナー装着

各種グッズ

スリープバスターのテスト導入

SR導入

▲社内での安全への取り組み。最新の安全ツールや車両安全装備などを積極的に導入。それらハード面に加えて安全運転啓発のためのイベントや教育のソフト面と合わせた万全の体制が印象的だ



▲ロジパルNo.1コンテストの様子。「①交通事故・交通違反が3年以上ない」「②社内での自責事故が3年以上ない」「③お客様からの信頼が厚い」「④エコドライブに徹している」「⑤管理者からの推薦」——の参加要件がある

SRを全車導入した理由は、安全を優先した必然の結果

SRは古くなったデジタコの代替機として2008年に検討を開始。安全を優先事項とし、「安全面の機能が優れる」「運転結果をすぐに確認できる」という点でSRに決定しました。

2009年9月にSRを購入し、2010年3月に全車運用を開始。当初は安全運転の可視化を重視し、ポケット型の『SRPocket』をメインに購入。大型車両にはデジタコ型の『SRDigitacho』を、ビデオ型の『SRVideo』は営業所ごとに1、2台を導入しました。

近年の法的な動きである大型以外へのデジタコ装着の義務化や、ドライバー拘束時間への管理対応、画像の活用などへの対応を検討した結果、2012年7月にデジタコと画像記録機能を持つ『SRV Digitacho』の全車搭載が完了しました。

SR導入後、SRにまつわるキャンペーンや、セミナーへの参加、SR得点アップの取り組みとして「SR得点開示」など社内の仕組みづくりを行いながら運用してきました。

SR導入後のマンネリを打破し、大成功した手作りキャンペーン

SR得点アップの取り組みは、導入2年でマンネリ化も見えはじめ、2011年に初のキャンペーンを実施しました。得点向上の結果を知らせるだけではインパクトが少ないため、「得点がうなぎ上りに向上する」ことを願い「うなぎ上りキャンペーン」と命名。名前のおもしろさもあり、予想以上に現場を取り込むことに成功しました。

キャンペーンの目的は、「自己の運転技術の見直し」「繁忙期の事故防止」「得点の伸びない営業所のボトムアップ」とし、繁忙期にあたる11月から12月末までの2カ月間、チーム内で切磋琢磨してほしいため、個人戦ではなく営業所対抗の団体戦としました。競技内容は、期間中の平均点上位を競う「①うなぎ捕まえた部門」、比較対象期間からの向上率を競う「②うなぎ上り部門」——の2部門にしました。結果は、①で1位が福岡営業所で98.7点、2位が静岡営業所で97.33点、全社平均で81.17点を記録。②では1位が茨城営業所2で6.79%、2位が川崎営業所2で6.71%という向上率となり、全体でも3.59%の上昇率になり、確実に各営業所の底上げとなりました。

レッドカードはKYTや事故防止策として大いに活用

「レッドカード(危険運転指導書)」の運用としては、記録画像を使い、「危険予知シート」を作成しています。ラミネート加工を施したもので随時事例として追加され、全国営業所へ配布しています。営業所ではドライバーズミーティングでの映像確認はもちろん、KYTシートを点呼時に「今日のKYT」として活用しています。またドライバーのふりかえりと管理者のコメントを記載したものを、本社にファクスさせ、画像データを共有サーバへアップロードして報告。報告されたレッドカードは事務局で判断し、危険なものは統括安全審議会にて報告されます。

特に気になる事例は、取締役などから直接管理者とドライバーに連絡し、状況確認をすることがあります。当然ドライバーはびっくりすると同時に「役員も運転を見ている」と自覚し、以前は「雲の上の人」の存在が「地上の人」くらいの親近感が沸き、社内のコミュニケーションにも役立っています。

2010年
導入当初



2012年
7月現在



▲SR得点開示。月初に各営業所の車種別SR平均点を集計。結果をポスター化して営業所に配布。赤色=69点以下、黄色=70~79点、緑色=80点以上で色分けされ、ポスターを見れば、その努力と成果が一目瞭然。平均点は77点から93点に向上(赤丸)。営業所によっては99.5点以上になり、平均点が四捨五入で100点にもなる



▲各営業所に設置された「みんなの掲示板」をSR得点開示方法として活用している



◀手作りのポスター(左)。受賞者名入りQUOカード(中)やレトルトのうなぎご飯の賞品(右上)など事務局のアイデアで大いに盛り上げた



◀うなぎ捕まえた部門1位の福岡営業所のコメント。ドライバー:「当初から2名が高得点を記録。その2強を倒そうと全員の意識が向上。高得点者への質問や、得点が悪いときの映像で分析など各自が積極的に行動しました」、管理者:「九州男児たちが頑張りました。上位3名はほぼ毎日100点。みんなの意識がとて高く、結果につながった。よくがんばったと褒めたいです」

表面(中)に事故直前の画像と設問があり、裏面(右)には実際に起こった挙動と「目に見える危険」「目に見えない危険」を掲載



白ナンバー事故を削減しつつ、さらなる安全対策を図る

SR導入がきっかけで始まった様々な取り組みの成果であり、事故削減理由の1つにSRが含まれていることは間違いのないと思います(P.1グラフ参照)。

事業拡大とともに白ナンバーの事故が増加傾向にあるので、これらを重要課題としてさらに安全対策強化に取り組んでいきます。

遂に決定!

第1回 SRグランプリ結果発表

部門賞 平均95.5点

個人賞 平均99.6点

SR得点コンマ1をしのぎ合う接戦!!



▲SRグランプリ 部門賞受賞企業様。各部門の受賞企業様には、賞状とともに、SRグランプリ授賞を証明する「ゴールドステッカー」を進呈(左の図は試作デザインのもの)

SRグランプリは、全国のSRを導入する企業や営業所、ドライバーが参加し、SR得点を競い合う安全運転コンテストです。記念すべき第1回目は、2012年3月から8月まで

の6カ月間、エントリーいただいた参加者(58社、87営業所、826名)のSR得点を元にランキングを行い、部門賞(乗用車、小型、中型、大型)と個人賞が決定しました。

受賞者よりコメント

「授賞=『自分たちの安全のため。だからガンバろう!』と声を掛け合い、社員全員で取り組みました。今後も事故抑止や安全運転レベル向上、燃費向上などの成果を出して全社導入を目指します」

(株式会社 スズケンロジコム 豊田営業所 様)

「授賞を励みにしながら、今後も乗務員とのコミュニケーションや関係性をより強くしたいと思います。第2回 SRグランプリでは優勝を目指して、今後もSRによる安全運転に取り組んでいきます」

(株式会社 モンリク 様)

■ 部門賞/乗用車部門

第1位 株式会社 スズケンロジコム 豊田営業所 83.8点

■ 部門賞/小型トラック部門

第1位 株式会社 カントラロジ 98.8点
第2位 前原運送株式会社 98.1点
第3位 山口運送株式会社 98.0点

■ 部門賞/中型トラック部門

第1位 株式会社 ロジバルエクスプレス 95.5点
第2位 高山運輸株式会社 94.2点
第3位 新雪運輸株式会社 94.0点

■ 部門賞/大型トラック部門

第1位 株式会社 明送 98.7点
第2位 株式会社 モンリク 97.1点
第2位 新雪運輸株式会社 97.1点

■ 個人賞/小型トラック部門

第1位 前原運送株式会社 西宮営業所 平田 耕時 様 99.8点
第2位 山口運送株式会社 西宮営業所 茶園 亮 様 99.7点
第2位 山口運送株式会社 西宮営業所 水口 徹 様 99.7点
第2位 前原運送株式会社 西宮営業所 松平 雄希 様 99.7点
第5位 ビアノ運送株式会社 静岡営業所 増田 成紀 様 99.6点

■ 個人賞/中型トラック部門

第1位 高山運輸株式会社 阪神営業所 西田 淳二 様 99.9点
第2位 高山運輸株式会社 阪神営業所 林 淳一郎 様 99.7点
第2位 有限会社ワイズトランスポート 中九州DDC 西村 繁 様 99.7点
第4位 三友通商株式会社 中九州DDC 宮副 貴文 様 99.5点
第5位 高山運輸株式会社 阪神営業所 菅野 貴浩 様 99.4点

■ 個人賞/大型トラック部門

第1位 株式会社モンリク 本社 野川 親美 様 99.8点
第2位 コバヤシライン株式会社 本社 重松 健一 様 99.7点
第3位 コバヤシライン株式会社 本社 奥田 恭久 様 99.6点
第4位 株式会社明送 守谷営業所 遠藤 正則 様 99.3点
第4位 東電物流株式会社 上尾事業所 笠原 一明 様 99.3点

■ 優秀賞

小型トラック 95点までの皆様 41名
中型トラック 95点までの皆様 82名
大型トラック 97点までの皆様 69名



第2回 SRグランプリ開催決定!! 安全運転技術向上と優勝を目指して奮ってご参加ください!

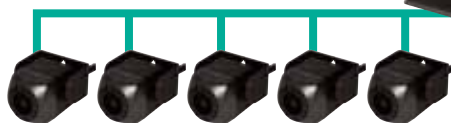
最大5台のカメラ接続可能!! 全方位監視ができるDVR

データ・テックは、お客様交流会にてSR対応デジタルビデオレコーダの新製品『DVR-Pro』を発表した。

DVR-Proは、最大5ch(5台)のカメラ接続が可能で、30fps(毎秒30フレーム)で常時録画を実現(記録メディアは、弊社指定CFカードを使用)。SRシリーズとの接続により安全運転診断指導との両立が可能。

バスやトラックの車内外の監視はもちろん、SRと組み合わせ

DVR-Pro



▲カメラ5台とマイク1台を接続可能。さらにSR(右)と接続することで、映像とSRデータを連動した運転指導ができる

ることで、現場映像とSRデータと連動したKYTや、事故・トラブル発生時の状況証拠などに大いに活用できる。



現場でのコミュニケーションが 安全運転技術や燃費向上のキーワード

事故削減や安全運転向上、燃費向上などSR導入後の有効活用について6グループに分かれて恒例の意見交換会(分科会)を行った。

1 車両特性とSRの点数への影響

- ルート配送か否か、積荷の量がSR点数に影響する
- いつでも速度を十分に落とし、常にゆっくりした運転操作を心がける
- 運転業務以外のメンタルな部分のケアやフォローも忘れずに

2 事故をなくすための道のり

- 管理者と現場ドライバーとの綿密なコミュニケーションを図る
- 決して点数だけで評価せず、失敗事例を活かしてプラスに働くよう導く
- 構内事故防止は目視確認が基本。バックモニタだけに頼らない

3 マネリと言わないSR運用方法

- SR点数ばかりを気にせず、得点が多少悪くても、事故を未然に防いだらドライバーを褒める
- 映像やSRデータを使ったKYTを積極的に実施

4 SRデータの活用方法

- 各拠点のSR得点や映像を全社配信したり、表彰制度を設ける
- SR点数のみで評価せず、交通法規や歩行者への配慮を含む日常運転の善し悪しを総合評価する

5 安全への取り組み

- 事故削減や燃費向上など結果だけを偏重せず、SR導入の目的(ドライバーの安全を守る)を現場に十分に理解してもらう
- ドライバーと管理者、会社とのコミュニケーションこそが重要

6 安全教育について

- どの会社も安全教育が課題。管理者の指導意図がドライバーにきちんと伝わっていない
- 安全指導とともに検定試験や適正検査の導入も1つの手

国際物流総合展2012 データ・テック セミナーレポート

現場で進化を続けるSRフォークリフト

厚生労働省の報告によると、特殊車両による死亡事故が274名におよび、このうちの6割がフォークリフトによるものという。データ・テックは、国際物流総合展2012にて「SRフォークリフトの活用事例」と題してプレゼンテーションセミナーを行った。

フォークリフトでの事故やトラブルを防止するために発売したのが、フォークリフト用SR『SRフォークリフト』です。同製品は、リーチフォーク(以下RF)とカウンターフォーク(以下CF)対応の解析ソフトがあり、現在市販の全フォークリフトに対応しています。フォークリフトの前後加速GはCFで0.3G(RFで0.26G)、減速GはCFで0.3G(RFで0.22G)になります。またトラックと違い、旋回速度が速いため、「旋回方位角速度がCFで50度/秒、RFで55度/秒を超えると危険運転になる」という基準値を定めています。

データ・テックは、コマツ物流株式会社様との協力の下、約2カ月間にわたり模範運転となる現場ドライバーによるデータを計測し、SRフォークリフトの基準データを作成しました。積載物の種類や重量、構内の路面状況など現場ごとに異なるため、お

SRフォークリフトの
ヒストグラム表示



▲セミナーに登壇したデータ・テック マーケティング本部の古本隆則



▲盛況だったデータ・テックのブース

客様ごとに基準値を決めさせていただいています。

フォークリフトではスイッチバック時での停止時間を最低2秒確保し、指差し確認を行うことが、後方バック事故防止に有効です。SRフォークリフトでは、「運転診断」画面のレーダーチャートやヒストグラム表示によって停止時間の正確な状況が把握できます(左図)。

同社からは「現在の運転診断と過去の運転診断データの変化が見たい」や、その他のお客様からも「不特定多数のドライバーの運転履歴がわかる仕組み」「屋内で稼働するフォークリフトのスピード超過の精度向上」などのご要望をいただき、フォークリフトメーカーとの協業を視野に入れながら今後の改良ポイントとして検討しております。

イベント
情報

第16回 SRお客様交流会 ご案内

日時: 2013年2月15日(金)

場所: 大田区産業プラザPiO 4Fコンベンションホール

株式会社 データ・テック

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-42-12
TEL.03-5703-7041 FAX.03-5703-7043
<http://www.datatec.co.jp>

2012©株式会社データ・テック
SRNEWS_VOL.59 1210C30-(0)